

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、世界的に様々な課題が顕在化したとされています。日本の教育においても、突然の学校閉鎖に始まり、閉鎖期間中の学力保障の問題、再開後の感染対策を徹底する中での日々の教育活動、急遽ひとり一台端末の方針決定、果てはここがチャンスとばかりに打ち上げられた「9月入学」！そして、少人数学級実現（30人以下学級）への切実な願いなど、実に様々な動きが学校教育をめぐる生まれました。確かに、新型コロナウイルスによる影響は深刻でしたが、このことにより、私たちの社会を振り返り、そして現在の学校教育を振り返る機会となったのも事実です。以下では、第3回の教育講演会の内容を紹介します。

教育講演会記録 「なぜ、少人数学級は必要なのか」 2020年12月26日オンライン 本田由紀先生(東京大学大学院教育学研究科教授)

お話の内容は大きく三つの柱に分かれます。始めに「日本の教育の課題」。二つ目は「少人数学級化の必要性」。そして、以上の二つを踏まえての「目指すべき方向」です。

1 日本の教育の課題

本田先生が昨年出版された『教育は何を評価してきたのか』（岩波書店）をベースに、現在の日本の教育の課題を、数多くのデータを元にしながら整理してくれました。

◎日本の教育の特徴

* **垂直的序列化**(子どもたちを細かく序列化する縦の評価軸:キーワードは「能力」)

「学力」が基準の日本型メリトクラシーと、「人間力」が基準のハイパー・メリトクラシーの2本の縦の評価軸がある。

* **水平的画一化**(特定のふるまい方や考え方を全体に要請する圧力:キーワードは「態度」「資質」)

教育現場での教化はハイパー教化へと変化し、より強い画一化へ向かった。道徳、スタンダード、校則etc

◎この二つの日本の教育の特徴が、児童生徒の中出身家庭の社会階層に基づく格差と排除・抑圧を生み出している。

◎不安定化・格差化する家族と、要求水準が高まる仕事の狭間で、**学校と教員は過重な負担**と資源の欠如のもとで疲弊している。

※多忙化し、疲弊している教員は、垂直的序列化と水平的画一化に頼らざる得ない実態もある。

◇垂直的序列化を示す資料

◇高校の生徒家庭の社会階層と、所属する高校の学校ランクは明確に比例している

◇日本は他国と比べて、「所得の高い人は、所得の低い人よりも、教育費を多く払って、よりよい教育を子どもに受けさせられる」ことを「正しい」と感じる割合が高い……格差を容認

◇日本は他国と比べて、「日本は学力が高いわりには、一人当たりのGDPが低い」実態がある。…日本は、学力が高くても生産性につながらない。

◇日本は他国と比べて、学力の高さが、社会の平等化につながっていない。

◆水平的画一化を示す資料

◆新教育基本法(2006)では「資質」(≒「態度」)として現れている

(教育の目的)

第一条 教育は、人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない。(※旧一条にあった「個人の価値をたつとび」は削除された)

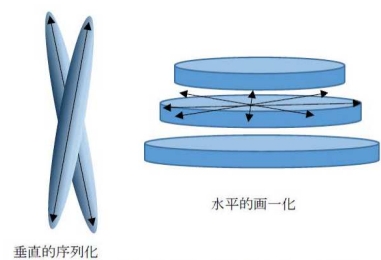
(教育の目標)

第二条 教育は、その目的を実現するため、学問の自由を尊重しつつ、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。

- 一 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、……
- 二 ……、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。
- 三 ……、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。
- 四 ……、環境の保全に寄与する態度を養うこと。
- 五 ……、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。

◆新学習指導要領では、「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の上に「何ができるようになるか」が位置し、「新しい時代に必要となる資質・能力の育成」がうたわれている。

◆日本は他国と比べて、「自分自身に満足している」「社会をよくするため、社会における問題の解決に関与したい」割合が低い。



○学校と教員の過重な負担を示す資料

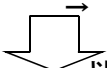
- 学校現場が抱える問題の状況に関しては、不登校児童生徒の割合や学校内での暴力行為の件数、日本語指導が必要な外国人児童生徒数など、多くの問題が増加している。
- 学校の教員の仕事は拡大し、多様化している。大部分の教員が仕事量や保護者対応を負担に感じている。
- Talis 調査でも、日本の教員の長時間労働は悪化していて、他の国と比べても、圧倒的に労働時間が長い。うつ病など「心の病」が原因で休職した教職員は2019年度は5478人で過去最多。

2 少人数学級化の必要性

検証してきた日本の教育の問題点は、学級規模がその背景要因となっており、学級の少人数化の必要性和、少人数学級を求める教育研究者有志の署名活動の経緯などをお話しされました。

◎学級当たりの児童生徒数の多さが、**垂直的序列化・水平的画一化・教員の過重労働**すべての背景要因となっている。

- ・学級当たりの児童生徒数が多いことにより児童生徒へのきめ細かい対応ができない + 履修主義により理解が遅れていても義務教育を修了したことになる → **垂直的序列化**
- ・児童生徒数の多い学級内の秩序を維持するために、個々の生徒の意見や主張は尊重されず、特定のルールやふるまい方が要求される → **水平的画一化**
- ・担当する児童生徒数が多いため、提出物等への対応、成績の記録などの事務作業、保護者への対応などの量が多い **教員の過重労働**



以上の必要性を裏づける資料

- ◇少人数学級は、特に社会経済的に不利な生徒に効果がある。
妹尾渉、北條雅一(2016)「学級規模の縮小は中学生の学力を向上させるのか」『国立教育政策研究所紀要』第145集によると、「学級規模の縮小が生徒の正答率を向上させる効果があることが明らかとなった。また、少人数学級の学力向上効果は、SES尺度(社会経済的地位尺度)が相対的に低い生徒が通う学校において大きいことが明らかとなった。」
- ◇少人数学級は学力以外にも効果がある
クラスサイズの拡大は、(a)学業成績を低下させること、(b)教師からのサポートを減少させること、(c)友人からのサポートや向社会的行動の減少をもたらすこと、(d)抑うつを高めることが示されている。
- ◇教育における ICT 利用は、OECD 平均より、とても低い。→少人数学級により ICT 利用を進められる可能性大。
- ◇コロナ下の休校で教育格差も拡大した。→少人数学級による丁寧な対応が求められる。
事例:「母がコロナのせいで職を失った」「塾のお金がきつくなった」「収入が減って学校に行けなくなる」
- ◆少人数学級への期待は大きく広がっている
 - ◆知事会など首長3団体「少人数学級、早期導入を」文科省へ要望。(7月3日)
 - ◆有志による「少人数学級を求める署名」
 - ・7月16日からChange.orgでインターネット署名開始、記者会見。10月8日時点で25,132筆の署名
 - ・11月9日に「私たちが目指す少人数学級」に関するパンフレットを作成し記者会見。18万筆。

3 目指すべき方向

講演のまとめで、今後の目指す方向を具体的に提示していただきました。

◎**垂直的序列化・水平的画一化**の特性を弱め、日本の教育に過小である**水平的多様性の拡充**へ。

そのために……

- ・個別学習と協働学習の組み合わせ、
- ・合科学習・異学年学習・探求学習・発展学習などの柔軟な適用
- ・そのための少人数学級とICT教育の必要性
- ・高校の学科、コースの多様化、進学可能性の確保 など



水平的多様化

◎目指すべき方向

★誰もがそれぞれに尊重され、可能性を発揮することができ、安心して生きていける社会

★…「今とは逆の社会へ」 ★そのための教育の変革へ ★鍵となるのは「**水平的多様性**」

講演の後、参加者でグループに分かれてのディスカッションをおこないました。

第4回 連続講座教育講演会 1月23日(土) 14:00~ オンライン

座談会「**偏見・差別・自粛警察を考える**」

話題提供: **山口毅氏(帝京大学文学部准教授)**

第5回 連続講座教育講演会 2月6日(土) 14:00~ オンライン

講演会「**コロナ禍で考える未来の社会と教育**」

講師: **岡野八代氏(同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授)**

【理事の一言】 教員として働きながら、学校の「校則」や「きまり」について考えることが増えました。なぜ、守らなければいけないのか。と、生徒に問われたときに答えられるように過ごしてきたつもりでしたが、「そもそもなぜその様なきまりが必要なのか」という本質について無自覚だったと感じています。時代とともに、学校のあり方・求められることが変わってきている中、共に考えることのできる仲間を増やしていきたいと思っています。(HM)